

オリンピック・パラリンピック教育の充実

校長 小林 繁

蒸し暑い日が続く中、梅雨の晴れ間にプールに入れた子供たちは、大変嬉しそうに泳いでいます。あと3週間で夏休みを迎えます。子供たちは様々な場面で学び、大切な経験を重ねました。できるようになったこと、頑張ったことを振り返り、成長を実感できるように支援して参ります。

さて、5月号でも紹介いたしました、本校はオリンピック・パラリンピック教育アワード校、文化プログラム学校連携事業の推進校に指定され、その取組に力を入れているところです。最近の関連する教育活動の様子を紹介します。

【5人制サッカー】6月19日(水)3年生

5人制サッカーは、「ブラインドサッカー」と「ロービジョンフットサル」の2つのカテゴリーに分かれ、ボールの鈴の音と、周りの声を頼りにプレイします。

おやじの会の会長でもいらっしゃる大西さんの紹介で、知念勇二選手と浅間愛氏を招きました。

アイマスクをして転がってきたボールを止める体験をしました。視覚情報が無い世界を体験し、はじめは、なかなかボールを触れませんでした。パスの出し手も工夫して、「少し右、少し右」と伝わる指示を出せるようになると、次第に動けるようになってきました。周囲の声の大切さが分かりました。大西さんが話された「障がいがある人もない人も一緒に楽しめて交流が広がる。」ということが体感でき、楽しい授業でした。



【ボッチャ】6月22日(土)全学年

臨川子供フェスタで、聖心女子大学の学生が、ボッチャの体験コーナーとオリンピックカルタのコーナーを設けてくださいました。子供たちとともに、保護者や地域の皆様にも参加いただきました。子供たちへの応援ありがとうございました。

【ハンドボール】6月25日(火)5・6年生

国立代々木競技場体育館が会場となる競技です。日本ハンドボール協会事務局長補 羽田裕一氏をはじめ、東京トライスターズの新名亮介選手、森下将史選手やコーチ陣を招きました。

デモンストレーションで、選手の強烈なシュートやエアプレイを間近に見て、大きな歓声が上がりました。「あんな風に格好いいプレイがしたい!」と夢中で基礎練習をした後、さっそくゲームです。果敢にシュートを狙う子、キーパーになった子も気合でボールをはじきます。「正面から抱えるのは悪いファールではない。」と教わり、身を挺して相手の攻撃を止める子もいます。

最後に、協会の方からスカウトの声もかけていただき、習っているスポーツから乗り換えるべきか頭を抱えた子もいて、微笑ましかったです。



7月22日(月)からは個人面談週間です。各担任より、成長の様子をお伝えいたします。御家庭におきましても、たくさん認め、励ましていただければと思います。